



2017年11月21日

各 位

会 社 名 株式会社トランスジェニック
代表者名 代表取締役社長 福永 健司
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 取 締 役 船 橋 泰
(電話番号 03-6551-2601)

<マザーズ> 投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

- 開催状況
- 開催日時 2017年11月21日 14:00～14:30
- 開催方法 対面による実開催
- 開催場所 東京国際フォーラム ガラス棟会議室
(東京都千代田区丸の内3丁目5番1号)
- 説明会資料名 株式会社トランスジェニック 2017年3月期中間決算説明会資料

【添付資料】

株式会社トランスジェニック 2017年3月期決中間算説明会資料

以上

2018年3月期 第2四半期

決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<http://www.transgenic.co.jp>

2017年11月21日

株式会社トランスジェニック

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

I. 2018年3月期 第2四半期 連結決算概要

II. 2018年3月期 連結業績予想

III. 事業トピックス

IV. 研究開発状況



I .2018年3月期第2四半期 連結決算概要

2018年3月期 第2四半期連結決算：ハイライト

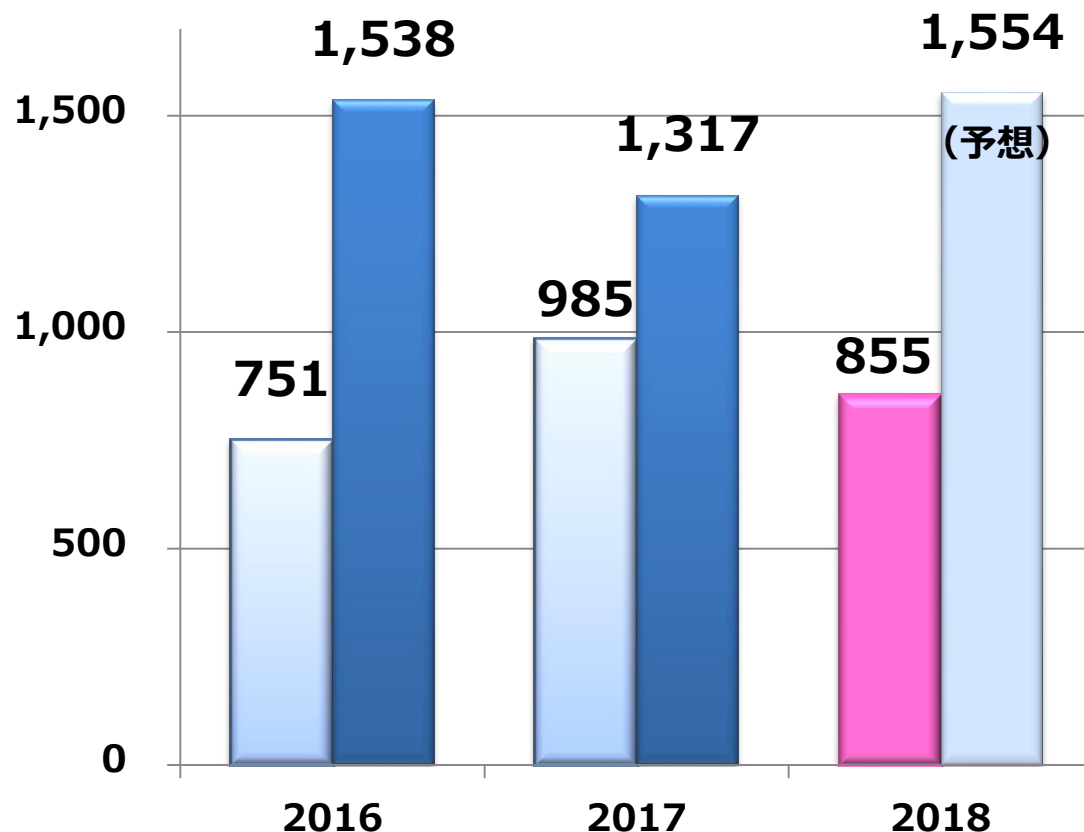
期首受注残減少ため上期業績は減収・減益。下期受注・売上でカバーする

- CRO事業の売上減の影響が大きいですが、本来、下期偏重のため後半でカバーする
- 持分法損失減少による営業外費用圧縮により営業外収支は改善
- 黒字体質確立による税効果により経常損失に比し最終損失は圧縮

単位：千円	2017年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	増減額
売上高	985,669	855,183	▲130,486
売上原価	674,472	630,180	▲44,291
売上総利益	311,196	225,002	▲86,194
販管費 (研究開発費)	307,731 (25,137)	306,407 (28,500)	▲1,324 (3,362)
営業利益	3,465	▲81,404	▲84,870
経常利益	▲19,449	▲89,997	▲70,548
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲22,730	▲73,334	▲50,604

上期・下期連結売上高 過去3期間の推移

(百万円) ■ 上期売上高 ■ 下期売上高

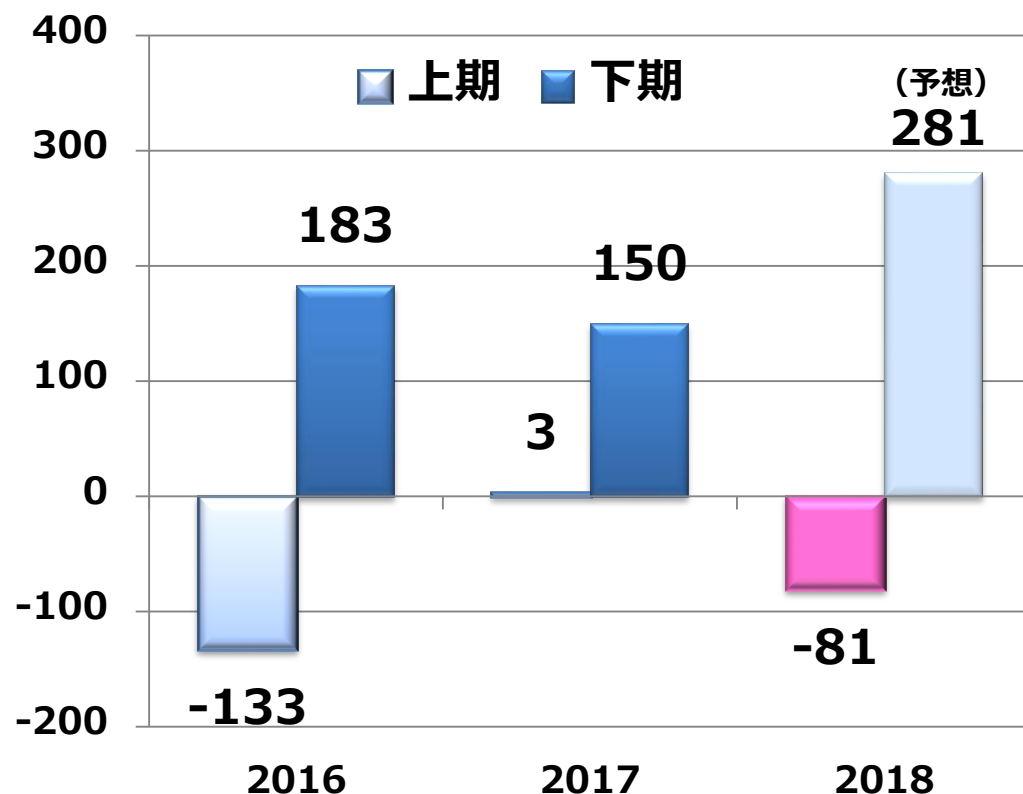


上期連結売上高 対前期比▲13.2%

期首繰越受注残減少の影響だが、例年のトレンドでいけば下期売上で予算達成可能

上期・下期連結営業損益 過去3期間の推移

(百万円)



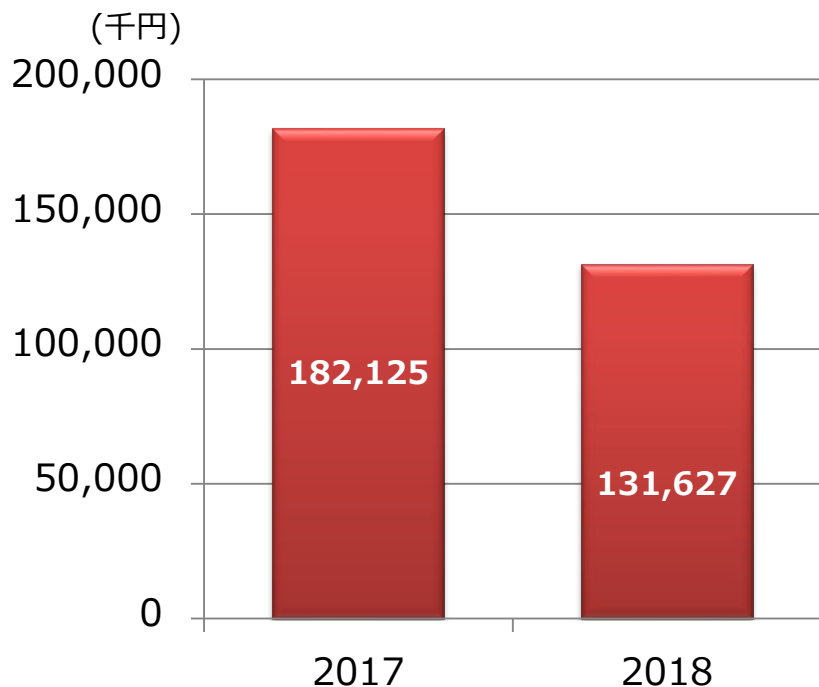
連結営業利益 対前期84百万減少

上期売上前期比減少に伴うものであり、売上同様下期挽回を狙う

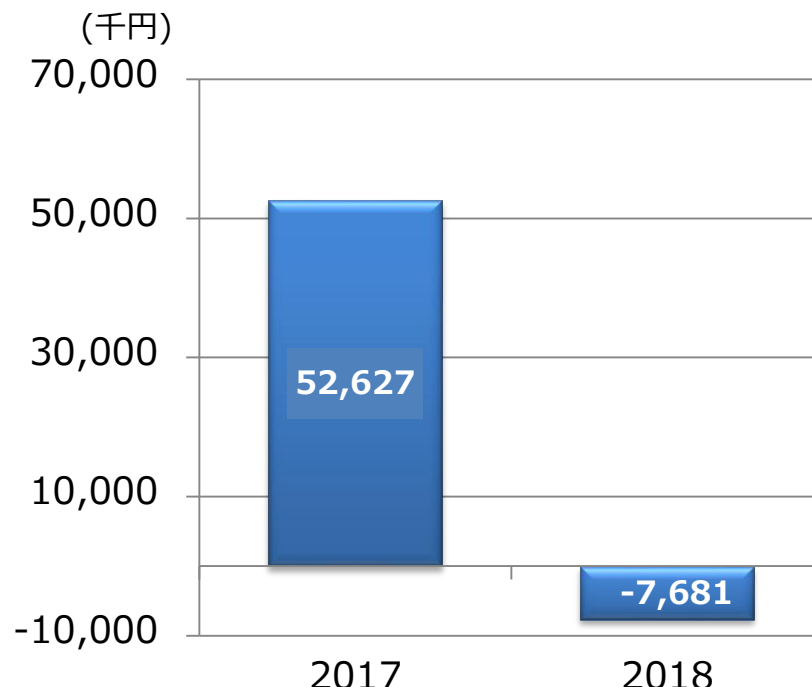
ジェノミクス事業

- ゲノム編集技術（CRISPR/Cas9）浸透一巡による受託市場変化により受注減少
- アカデミア向け受託事業依存構造からの脱却を目指し、企業向け受注活動の強化及びモデルマウス事業確立を急ぐ

第2四半期売上高



第2四半期営業利益

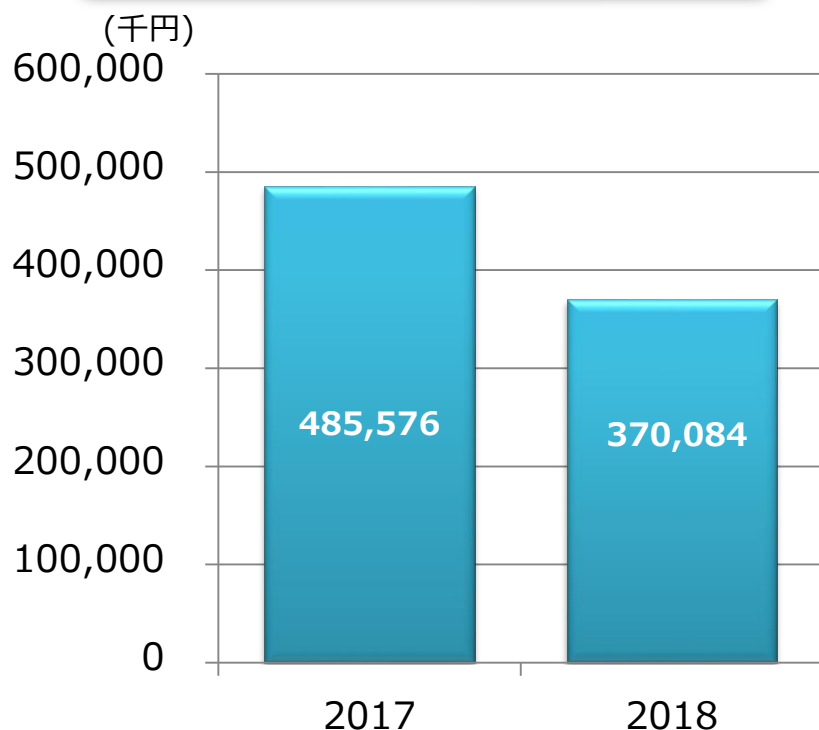


セグメント別業績概要：CRO事業

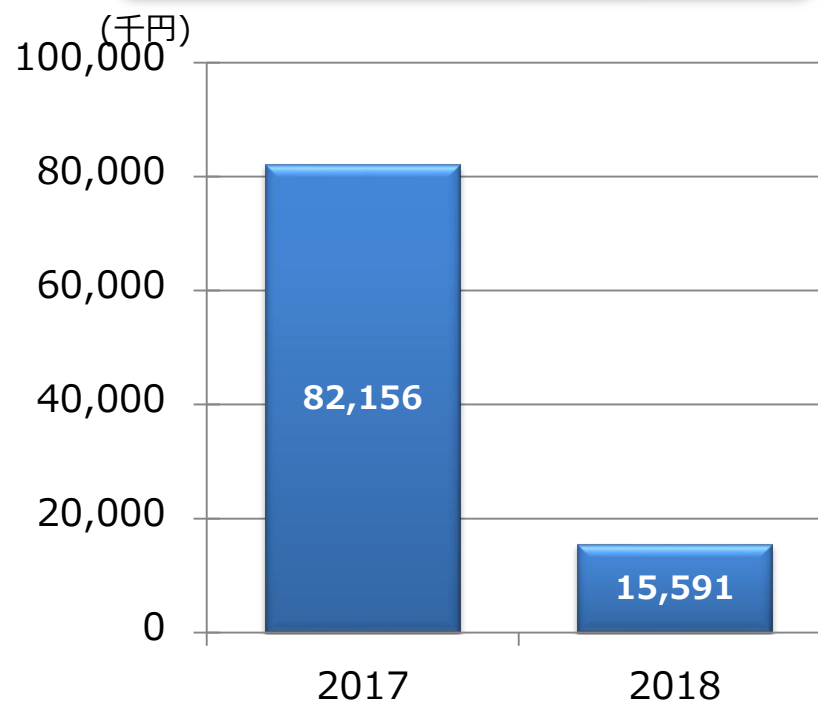
CRO事業

- 上期売上高対前期比▲115百万円は、期首受注残減（▲170百万円）の影響が大きいですが、期中獲得受注額は順調に推移しており下期で挽回する
- 下期偏重型の損益構造だが黒字体質を着実に構築している

第2四半期売上高



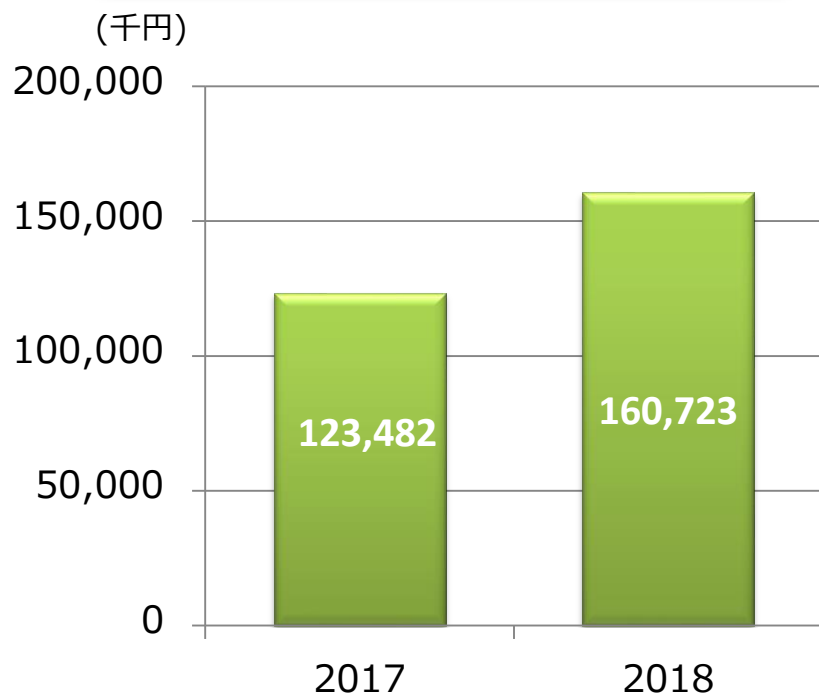
第2四半期営業利益



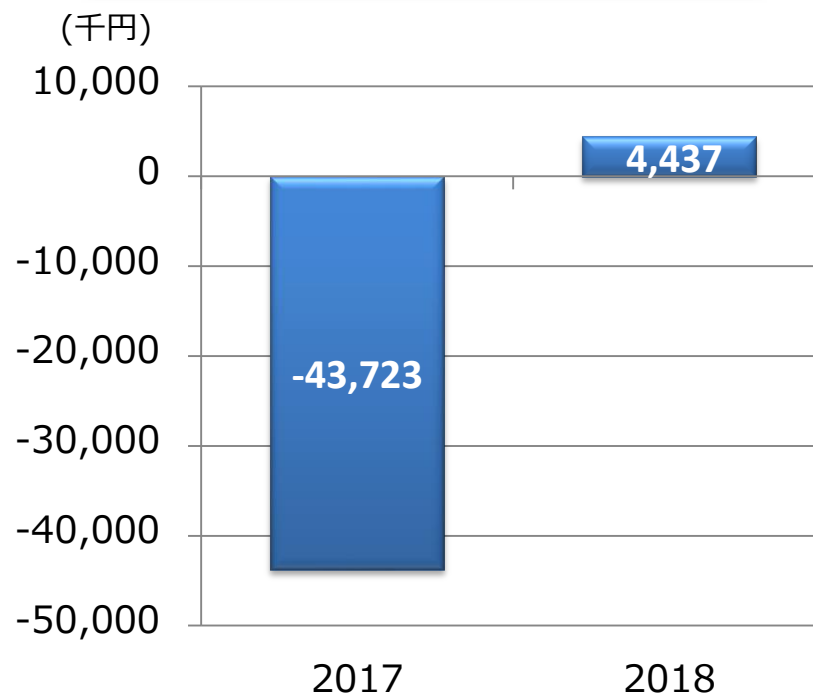
先端医療事業

- DTCサービス受託・癌ゲノム診断も需要拡大を受け順調に拡大
- 製薬企業向け治験支援サービスの分子病理サービスも順次受注を獲得
- これらの結果、前期比で増収・大幅増益、上期での黒字転換を達成

■ 第2四半期売上高



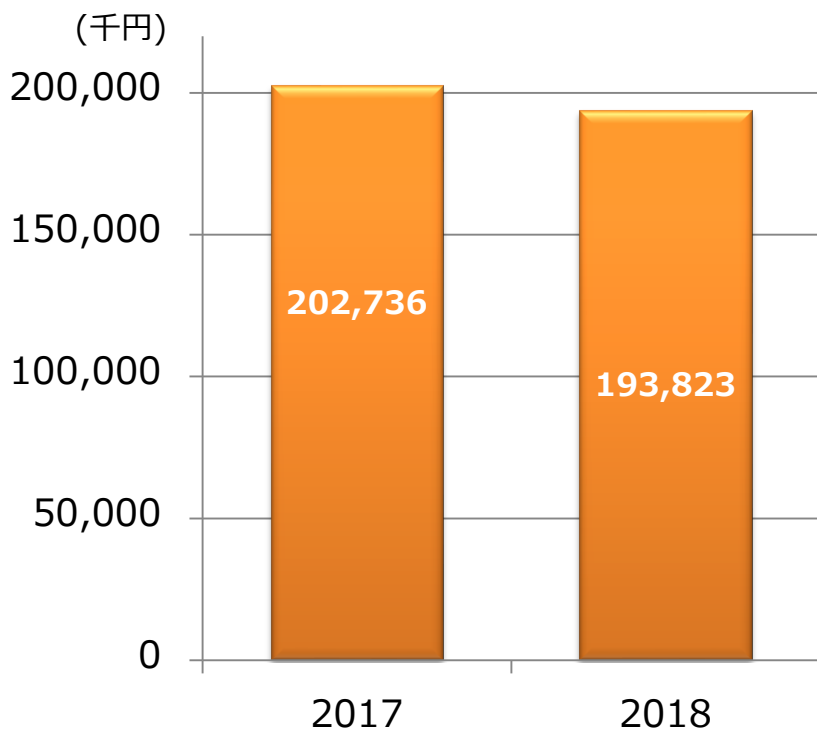
■ 第2四半期営業利益



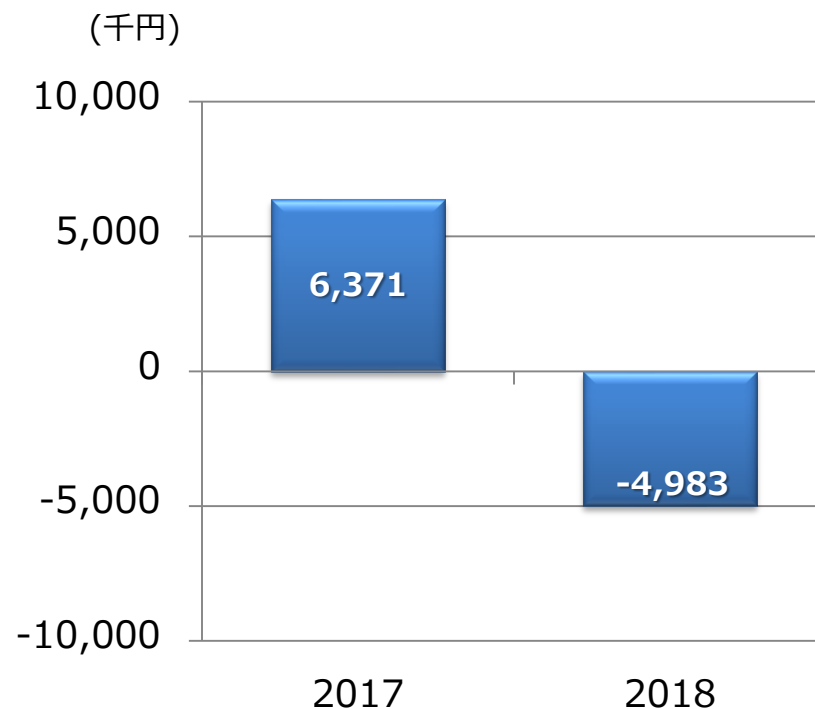
病理診断事業

- 高品質サービス体制維持により通常診断売上高は堅調に推移するも微減
- 自己採取HPV検査の市場浸透は時間を要するが認知度拡大施策を継続
- 自己採取HPV検査売上の予算未達により上期は減益・営業損失

第2四半期売上高



第2四半期営業利益





Ⅱ.2018年3月期 連結業績予想

2018年3月期 連結業績予想

ジェノミクス事業の不調を堅調なCRO事業及び好調な先端医療事業でカバーし、セグメント全体で通期予算を達成する。

単位：千円	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (予想)	前期比	補足説明
売上高	2,302,908	2,410,000	104.7%	
ジェノミクス事業	420,148	不調セグメント事業については、好調セグメント事業でカバーし、売上予算を達成する		市場変化への対応急ぐ
CRO事業	1,150,505			下期巻き返しを図る
先端医療事業	356,587			DTC、NGSが売上を牽引
病理診断事業	399,294			前期並みを想定
本社・連結調整	▲23,626			▲20,000
営業費用 (研究開発費)	2,148,960 (48,015)	2,210,000 (51,290)	102.8%	売上増加に対応
営業利益	153,948	200,000	129.9%	
経常利益	88,272	170,000	192.6%	持分法損失軽減により大幅拡大
親会社株主に帰属する 当期純利益	80,694	110,000	136.3%	



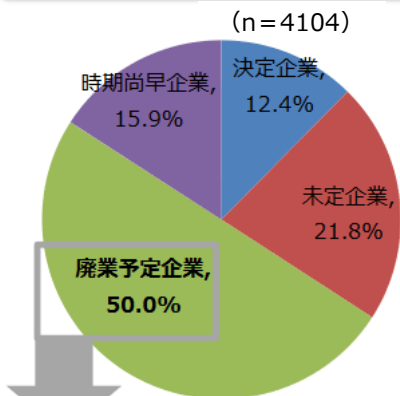
Ⅲ.事業トピックス

新会社（TGビジネスサービス：TGBS）設立

この8年間で培った企業買収・再生のノウハウを活かし、成長市場である事業承継・再生分野に参入する。

事業承継・再生分野市場状況

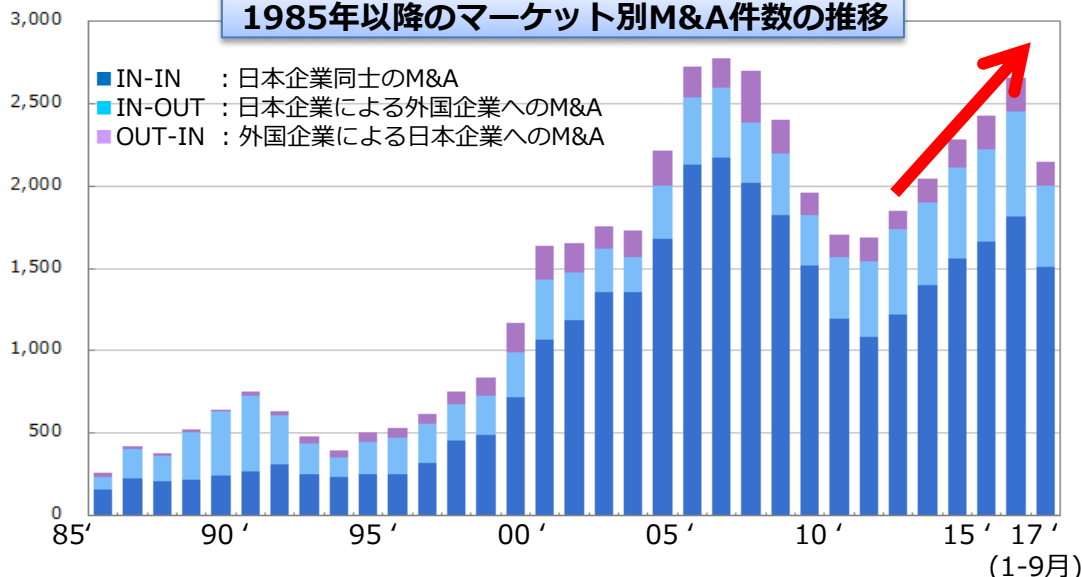
後継者の決定状況について



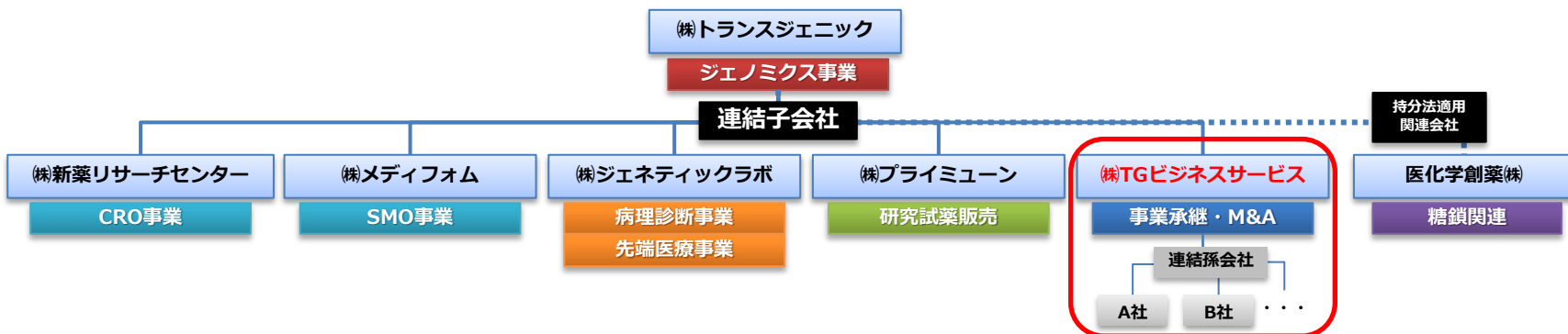
法人経営者：3割が廃業予定
個人経営者：7割が廃業予定

(※出典 中小企業庁「事業承継に関する現状と課題について」)

1985年以降のマーケット別M&A件数の推移



(※出典 レコフ社「グラフで見るM&A動向」)



実行未了のライフサイエンス分野を対象としたM&A、及び今回新規事業として開始する事業承継・再生分野の投資資金の原資を調達するために、350万株、調達予定額2,225百万円の新株予約権を発行

【概要】

①割当日	平成29年10月27日
②当該発行による潜在株式数 (発行新株予約権数)	350万株 (3,500個)
③割当先	メリルリンチ日本証券株式会社
④資金調達の額	2,225百万円
⑤行使価額及び行使価額の修正条件	行使価額は、本新株予約権の各行使請求の効力発生日の直前取引日の当社普通株式の終値の90% 下限行使価額 444円
⑥行使制限	<ul style="list-style-type: none"> ・当社による本新株予約権の行使の指定 ・当社による本新株予約権の行使の停止
⑦本スキームの特徴、デメリット	<p>(特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な資金調達 ・最大希薄化率 23.94% ・株価上昇時には調達金額が増大 <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場環境に応じて、調達完了まで一定の期間を要する ・株価下落の場合は、調達額が下回る可能性あり



IV. 研究開発状況

開発パイプライン状況：モデルマウス系統

遺伝子改変技術開発

ROSA26座位での組換え

CRISPR/Cas9法

実用化済

モデルマウス系統の開発

※自社または外部研究機関からの導入開発



モデルマウス系統	導入機関	開発進捗
病態可視化マウス	小胞体ストレス可視化マウス	理研 → 販売中
	酸化ストレス可視化マウス	群馬大 → 販売中
	炎症可視化マウス	群馬大 → 販売中
	UMAIマウス	金沢医科大学 → 販売中
中枢神経系モデルマウス	アルツハイマー病モデルマウス	大阪市立大 → 受託サービス実施中
	認知症モデルマウス	(有)行動医科学研究所 → 受託サービス実施中
	精神・神経疾患モデルマウス	産総研 → 受託サービス実施中
メタボリックシンドローム系モデルマウス	NASHモデルマウス	東大 → 受託サービス開始
	肥満抑制モデルマウス	TG社 → 販売中
	乳がんモデルマウス	九州大 → 販売中
	夜型モデルマウス	産総研 → 販売中
	アトピー性皮膚炎モデルマウス	兵庫医科大、三重大 → 販売中
肝臓ヒト化マウス	熊本大・TG社	技術移転実施中

開発パイプライン状況：抗体・診断薬・治療薬



短期

抗体製品の開発と応用

外部研究機関からの導入開発

日本、アジア8か国、欧州4か国で上市

中期

肝臓がんマーカー

アボット社

尿中がんマーカー

九州大学等

※中国企業での臨床試験実施中

上市に向け進行中
(国内診断薬メーカー、
テクノメディカ)

膵がんマーカー

国立がんセンター

※(株)免疫生物研究所と共同研究
※中国企業と独占ライセンス契約締結

ライセンス先交渉中
追加データ蓄積中
測定キット販売中

泌尿器がんマーカー

順天堂大学

※中国企業と独占ライセンス契約締結

測定キット販売準備中

うつ病マーカー

産総研

測定キット販売準備中

卵胞機能マーカー

聖マリアンナ医大

抗体作製中

自己免疫疾患マーカー

医化学創薬

有用性検証中

乳がんマーカー

医化学創薬

有用性検証中

4月

病態可視化マウスに関する論文がScientific Reports に掲載

6月

がんクリニカルシーケンス受託解析サービス開始※1

早期がんマーカーとしてのジアセチルスペルミンに関する特許実施許諾契約を締結

アルツハイマー病モデルマウスに関するライセンス契約締結

「エクソソーム糖鎖解析サービス」開始※2

アルツハイマー病治療薬に関する共同研究開発契約締結

7月

機能性糖ペプチドに対する抗体に関する共同研究開発契約締結※2

精神・神経疾患モデルマウスに関するライセンス契約締結※3

8月

遺伝子改変モデルマウスを用いた中枢神経系非臨床試験受託サービス開始

がんクリニカルシーケンス受託解析サービスの販売代理店契約の締結※1

10月

「"ストップ！子宮頸がん"の会」市民フォーラム開催※1

11月

非アルコール性脂肪肝炎（NASH）モデルマウスに関する独占ライセンス契約締結

■ 共同研究
 ■ ライセンス契約
 ■ 製品・サービス
 ■ 学会・論文
 ■ その他

当社グループ会社 ※1 ジェネティックラボ ※2 医化学創薬 ※3 新薬リサーチセンター

当社の主要な特許の成立状況

マウス関連	臓器ヒト化マウス技術	『JP5899388』 日本にて成立	2016年 3月
	トラップマウス技術	『AU778719』 オーストラリアにて成立 『US7,312,075』 米国にて成立 『EP1201759』 欧州にて成立 『ZL00812904.5』 中国にて成立 『HK1048830B』 香港にて成立 『JP4664554』 日本にて成立 『ZL200510084464.6』 中国にて成立 『US8,722,408』 米国にて成立	2005年 4月 2007年12月 2010年 3月 2010年 6月 2010年12月 2011年 2月 2013年 4月 2014年 4月
バイオマーカー関連	GANP®マウス技術	『ZL2003801028324』 中国にて成立 『AU2003277620』 オーストラリアにて成立 『EP1559318』 欧州にて成立 『JP4426728』 日本にて成立 『KR941905』 韓国にて成立 『JP4478577』 日本にて成立 『US7,919,674』 米国にて成立 『ZL200710193915.9』 中国にて成立 『HK1124363B』 香港にて成立 『JP5080597』 日本にて成立	2008年 7月 2009年 2月 2009年 4月 2010年 1月 2010年 3月 2010年 4月 2011年 4月 2011年 9月 2011年12月 2012年 9月
	尿中がんマーカー： 尿サンプルによる 癌診断の測定系	『JP3816512』 日本にて成立 『US7,700,741』 米国にて成立 『JP4608432』 日本にて成立（早期がんの診断） 『US9134313』 米国にて成立（早期がんの診断）	2006年 6月 2010年 4月 2010年11月 2015年 9月
	膵がんマーカー： 抗体ならびにその診断応用	『JP4319700』 日本にて成立 『US8,883,972』 米国にて成立	2009年 6月 2014年11月
	新規胆管がんマーカー	『JP5716257』 日本にて成立	2015年 4月
	新規肺がんマーカー	『US9644026』 米国にて成立	2016年12月
	タンパク質高発現系技術	『JP5800176』 日本にて成立	2015年 9月



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<http://www.transgenic.co.jp>